

令和4年度第2回江別市未来型政策検討委員会

会 議 録

令和4年10月27日（木）

江別市民会館 37号室

江別市未来型政策検討委員会事務局

（江別市企画政策部デジタル政策室）

目 次

1. 開会	2
2. 議事	
(1) 江別市DX推進方針（仮称）について	
ア 江別市DX推進方針（仮称）の策定	2
イ 市の取組状況	5
ウ 市の課題	9
(2) デジタル田園都市国家構想推進交付金に係る進捗状況について	13
3. その他	15
4. 閉会	18

令和4年度第2回江別市未来型政策検討委員会

1. 日 時 令和4年10月27日（木） 午後15時30分～午後17時00分
2. 場 所 江別市民会館 37号室
3. 出席者 江別市未来型政策検討委員11名、江別市8名（事務局含む）

江別市未来型政策検討委員会 (◎委員長)		
番号	氏 名	所 属
1	北川 裕治	江別商工会議所
2	龍田 昌樹	江別工業団地協同組合
3	布施 望	道央農業協同組合
4	川口 圭太	江別市社会福祉協議会
5	佐藤 誠一	江別市自治会連絡協議会
6	吉田 光岐	江別市小中学校長会
7	◎明神 知	北海道情報大学
8	渡邊 慎哉	札幌学院大学
9	佐藤 和夫	酪農学園大学
10	鈴木 秀明	市民公募
11	干野 里佳	市民公募
出席 11 名		

江 別 市 (事 務 局)		
番号	氏 名	所 属
1	川上部長	企画政策部
2	伊藤次長	企画政策部
3	堂前室長	企画政策部 デジタル政策室
4	天明屋参事	企画政策部 デジタル政策室
5	池田参事	企画政策部 デジタル政策室
6	鈴木主査	企画政策部 デジタル政策室
7	坂口主査	企画政策部 デジタル政策室
8	木村主査	企画政策部 デジタル政策室
出席 8 名		

※江別市PTA連合会 長谷川 伸委員、北翔大学 浅井 貴也委員は欠席

4. 傍聴者数 0名

1. 開会

●事務局

本日は、大変お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、「令和4年度第2回江別市未来型政策検討委員会」を開会いたします。

江別市PTA連合会の長谷川委員、北翔大学の浅井委員は、欠席のご連絡をいただいております。

なお、当会議における各委員の発言内容につきましては、市民参加条例に基づき作成した議事録を、事前に委員の皆さまにご確認いただいた上で公開することといたしますので、予めご了承願います。

2. (1) 江別市DX推進方針（仮称）について

ア 江別市DX推進方針（仮称）の策定

●明神委員長

次第に従いまして、議事の『(1) 江別市DX推進方針（仮称）について』の『ア 江別市DX推進方針（仮称）の策定』について、事務局より説明願います。

●事務局

それでは、江別市DX推進方針（仮称）の策定について、ご説明いたします。

資料1をご覧ください。

この資料は、資料の題目にもありますとおり、本市がDX推進方針を策定するに至った背景などについてまとめたものとなります。

では、資料1ページをご覧ください。まず、1のデジタル関連の動きについてご説明いたします。

資料上段から下段にかけ、国がこれまで示してきた方針や計画をまとめさせていただきました。そこには、国が目指すデジタル社会のビジョンや自治体に求められることなどが示されており、自治体が全庁的にDXを推進していくには、こうした内容を踏まえ、全体的な方針を定める必要があるものとされています。

次のページをお開き願います。

資料上段に、国がデジタル社会で目指す具体の姿を記載させていただいております。また、そのような社会を創り上げる具体策を考える上で、前提となる理念や原則として、どこでもデジタルの恩恵を享受できることや「オープン」「公平」「安全安心」「社会課題の解決」などが挙げられております。

これらのことから、デジタル技術を活用することで市民にとって生活の利便性が向上するよう、本市におけるデジタル化の方向性を示すため、国の重点計画や手順書の内容を踏まえ、当委員会のご意見を十分に伺いながら、DX推進方針を策定することとしたところでありますので、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

策定までのスケジュールについては資料下段に記載しておりますが、今年度末の方針策定を目指して取り組んでいければと考えております。

なお、DX推進方針の完成イメージとして、旭川市が策定したデジタル化推進方針の概要版を最後のページに載せさせていただきましたので、参考にご覧願います。

説明は、以上でございます。

●明神委員長

ありがとうございます。只今の説明について、何かご意見・ご質問などございますでしょうか。

●佐藤（誠）委員

1点だけ質問したいんですが、誰もがいつでもどこでもデジタルの恩恵を享受と、いう大切な一文があるんですが、これはあくまでも、市民全体がWi-Fiやタブレットなどが支給されるなり、そういうようなサポートを、そういった体制を整ったことを前提に考えていいということはどうでしょうか。

●事務局

市民の皆さまにタブレットなどを配るという具体的内容は決まっていないのですが、今後、デジタル化を進めていく上で、一つの分野にかかわらず、様々な分野においてデジタル化というのを進めていかないといけないと考えております。そこで、各年代ですとか、性別ですとか、そういう方にデジタル化の恩恵を享受できるような環境整備を進めていきたいと考えております。

●渡邊委員

デジタル社会で目指す6つの姿の中に、誰一人取り残されないデジタル社会の実現っていうところがあります。ここが非常に大事なところだと思うのですが、誰一人取り残されない社会を実現するためにどういった方向性で進めていくつもりかをお伺いしたい。

●事務局

誰一人取り残されないというところで、今回、江別市の全体方針を皆さま方から意見を伺いながら策定していくことになります。

先ほども、お答えさせていただきますが、江別市の方向性として、あらゆる課題や意見をお伺いしながら、幅広い市民の皆さまに恩恵が受けられるような全体方針というものを策定していきたいと考えております。

●渡邊委員

誰一人取り残されないデジタル社会を実現するためには、インフラの中に溶け込ませるってことが非常に大事なんじゃないかなと考えます。つまり、市民が気づかないうちにそのデジタルの恩恵を受けているというような社会を実現することが非常に大事なのではないかと考えております。

これからこの会議等で、多分そういうところを詰めていくと思いますが、できるだけインフラに溶け込ませるような形で実現できればと考えております。

●事務局

いろいろな視点があると思いますので、ご意見をいただきながら方針の策定を進めていきたいと考えております。

●明神委員長

渡邊委員から溶け込ませるというキーワードが出ましたけども、これは難しい課題です。ITとかデジタルというと、高齢者にしても若者にしても非常に難しいものになっていまして、これをどのように溶け込ませるかについては、色々なやり方あると思います。非常に良いキーワードだと思いますので、色々と研究していただければと思います。

●鈴木委員

先ほどと同じくデジタル社会で目指す6つの姿の中にデジタル化による成長戦略とあります。これから煮詰めるのだと思うのですけれども、成長といっても経済的な成長なのか人口的な成長なのか、その辺は特にこだわらずこれから議論を深めていくことでよろしいでしょうか。

●事務局

デジタル化による成長戦略についてですが、国では様々な価値ですとか競争力の源泉であるデータの活用により、あらゆる産業のデジタル化を推進していくことで、国民一人一人のニーズやライフスタイルに合ったサービスを提供する豊かな社会を実現するというを示しております。

全体方針を策定する上では、こういった国の動きも視点に入れながら策定していきたいと考えております。

●明神委員長

この6つの姿というのは国の姿ですので、少し自治体では違うかもしれませんが、産業の成長というのは同じだと思うのでぜひ進めていただき、攻めの成長戦略というか、そういった方向にもぜひ取り組んでいただきたいなと思います。

他にございませんか。

●龍田委員

私もその6つの姿の中で、一つだけ質問したいことがございます。②の医療・教育・防災については何となくイメージがつくのですが、“こども”というのは、どういったものを指しているのかがちょっと理解出来なかったもので、教えていただければと思います。

●事務局

“こども”の部分ですけれども、例えば保育に関わるデジタル化というところを想定しているのではないかと考えております

●干野委員

デジタル社会で目指す6つの姿の中にデジタル人材の育成確保というのがございますけれども、このデジタル人材というのは、どういった人材を想定しているのか、大まかなところでいいので教えていただけますでしょうか。

●事務局

まずはライフステージに応じたそれぞれのデジタル化に資する取組がございますので、そういったデジタル化の取組に対応できるよう自治体内部の人材育成を進めていく必要がございます。

また、これからデジタルな社会を進めていく上で、国は、デジタル機器・サービスに不慣れな方に対し、それらの利活用をサポートする取組としてデジタル活用支援員の育成なども行っていることから、当市においても、その流れに沿って市民が主体となってデジタル化を推進することができる人材育成もしていきたいと考えてございます。

●明神委員長

似た言葉でIT人材というのがありましたけども、最近のデジタル技術というのは特にAI、ビッグデータやIoTなどがございます。特にDXなんていうと、トランスフォーメーションということで少し大きなテーマにもなってくるかと思えます。

先ほど、溶け込むというお話ありましたけど、デザイン思考や人間中心に考えるなど、UIやUXなど手法はいろいろございますので、市民を置いてきぼりにしないIT化、デジタル化というのを目指して、そういったデジタル人材を育成するといいかもかもしれませんね。

●明神委員長

ほかに何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

これは国が目指す6つの姿なので、こういったことを飲み込んで江別市としてどうしていくかをこれから考えていただくということかと思えますのでよろしくお願い致します。

2. (1) 江別市DX推進方針（仮称）について

イ 市の取組状況

●明神委員長

それでは、次に移りたいと思います。

『イ 市の取組状況』について、事務局より説明願います。

●事務局

それでは、市の取組状況について、ご説明いたします。

この資料は、当市において、すでにデジタル化の導入が進んでいる分野がございますので、今後の推進方針の検討に際しての参考として、その一部をご紹介しますと思います。

それでは、資料2の1ページをご覧ください。

子育て分野における保育ICTシステムの導入について、ご説明いたします。

これまで保育士は、日誌等の作成業務や登降園管理を手作業で行っており、また、保護者は欠席や遅刻の連絡を電話で行っておりました。

しかし、当該システムが導入されることにより、保育士が行う業務の一部がシステム化されることから保育士業務の省力化・効率化が図られます。また、保護者と園のやり取りがデジタル化することにより、保護者の美々の園利用における利便性が向上することに繋がります。

なお、当該業務支援ツールは、今年度中に導入予定となっております。

次に、2ページをご覧ください。行政手続のオンライン化について、ご説明いたします。

国では、デジタル化による利便性の向上を市民が早期に享受できるよう、令和4年度末までに、子育てや介護などに関する一部の手続き、資料下段の27手続について、マイナンバーカードを用いてオンライン申請を可能にすることとしていることから、現在、オンライン手続が可能となるよう準備を進めているところであります。

なお、こうしたオンライン手続については、住民の負担軽減にも繋がることから、徐々に手続き数を拡大していく予定であります。

次に3ページをご覧ください。

教育分野におけるGIGAスクール構想に基づくICT機器等の活用についてご説明いたします。

G I G Aスクール構想とは、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを実現するため、資質・能力を一層確実に育成できる I C T 環境を早期に整備するといったものでございます。

こうした状況の中、当市では、令和2年度より、指導者用・学習者用タブレット端末を全校の生徒・教員に整備、多機能大型ディスプレイや指導者用デジタル教科書を導入するなどし、I C T環境の整備を進めてまいりました。

次に、4ページをご覧ください。

ここでは、I C T機器を効果的に活用した事例を何点か載せさせていただいております。

I C T機器を活用することで、受けとる、思考する、交流する、発信する力を身に付けるため、文書編集やプレゼンテーションなどの問題発見・課題解決力、協働学習等をおして、子ども同士が教え合い、学び合う力を育むことが期待されます。

説明は、以上でございます。

●明神委員長

ありがとうございます。只今の説明について、何かご意見・ご質問などございますでしょうか。

●川口委員

今回いろんな機器を使ってI C T化を進めていくということですが、最初の資料に誰一人取り残されないという文言がありました。例えば、こういう機器を使う上で、視覚障がい者の方などともいると思うのですが、そういう方々への対応としてどのようなことを考えていらっしゃいますでしょうか。

●事務局

必要に応じて説明会などを実施し、障がいのある方にも使用していただけるようなシステムや環境整備などを検討してまいりたいと考えております。

●渡邊委員

1ページ目の子育てのところですが、この中に期待される効果というところがあって、何か効率化が中心に書かれていますが、子供の安全といいますか、そういった部分も少し強調したほうが良いと思います。

つまり、I C T化されることによって、この間もバスに取り残された子どもがいたというニュースがありましたが、そのような事故を無くせることが実現できると思います。そういう意味で、効率化だけではなくて、子どもの安全にも寄与するというような表現も入れたほうが良いかなと思いました。

●事務局

委員からいただいたご意見について、方針を策定する上で、そういった視点も入れていきたいと考えております。

●明神委員長

子育て支援については評価されてる江別市ですので、子供の見守りなどを強化していくようなことにさせていただくといいかもしれません。みんなで子どもを守るというか、そういうようなことも考えていくべきだと思います。

ほかに何かございますでしょうか。

●鈴木委員

様々な機器類を見せていただきました。一方でこれを運用する人の面についてもう少し強調したらいいと思います。例えば、最初の保育ですと、市民側がうまく活用できるのかどうか。行政サービスも同じです。三つ目のG I G Aスクールに関しては、利用者が子供だけではなくそれを指導する教員が、しっかりこういった機器類に対応できるのかという視点について、こういった資料に説明があると市民として安心できると感じました。

●事務局

デジタル化は人材の話もございますので、方針を策定する上で、そのような視点についても検討していきたいと考えております。

●鈴木委員

もう1点。このG I G Aスクールについて誰一人取り残すことなくというところですが、これはデジタル庁が掲げた内容ということは承知していますが、一個人として、取り残さないレベル感がもう少しはっきり分かるとうれしいと思います。

例えば、同じ子供であっても、学校だけではなく家庭や放課後のスクールなどで、独自学習するようになるとその差にばらつきが出たり、あるいは、子供だけではなく大人もこういったデジタルスキルというのを磨かなければならないという考えがあると思います。

誰一人取り残すことなくという、そのレベル感が、ある人に関してはかなり高度だけれどもある人はそこそこ、また、そのそこそこで十分なのかというところがちょっと気になった点です。

●事務局

G I G Aスクール構想の推進については、教育委員会が所管となって進めておりますが、各児童生徒のいろいろなI C T機器の活用レベルについては、まだばらつきがあると考えております。各小中学校においてそういったばらつきがでないよう、昨年度江別市教育情報化ガイドラインを策定し教育委員会の中でもそれに沿って進めていると認識しております。

●吉田委員

今、G I G Aスクール構想という話がありましたので、学校の様子について少しお話しさせていただきたいと思います。全児童生徒にタブレットが配布されて、実際に授業の中でも調べ学習だけでなく、新型コロナが非常に流行している状況の中で、学級閉鎖などでお休みしている子供たちに対する学びの保障という点で、1人1台端末を持ち帰って学習の様子や健康観察などタブレットを活用させていただいています。デジタル教科書やA Iドリルなども少しずつ導入されてきて、A Iドリルについては、家庭学習と絡められるということで、今その選定を各学校で行っており、より一層学習の効率化を図るために活用させていただいています。

また、意外と子どもたちのほうが理解が早く、大人よりも早いです。私たちが指導する以上に、子どもたちは技術をどんどん学んでいるところであります。逆に、今、ご心配いただいている先生方の指導面ですが、やはり技術的なところで研修をしっかりしていかないと、正しい指導のもとで子どもたちが学びを進めていくができません。一部の先生が出来て一部の先生出来ないとい訳にはやっぱりいきません。

これから小中一貫教育をこれから進めていくのですが、ある学校では進んでいるが

こっちの学校では進んでない、二つの小学校から上がってきた中学校に入学した子に、タブレットの使い方に差があるということがないように、平準化を進めることも大事なかなと思います。現在も小中学校、それから近隣校同士でも情報交換しながら、指導の仕方をそろえるなど、先生方のスキルアップのための研修の充実化については重点化を図って進めてるところであります。

情報提供ということで、少しお話しさせていただきました。

●明神委員長

非常にご苦労されてると思いますけれども、私も事務局との打合せでそういう先生の負担が非常に増えるのではないかというお話をさせていただきました。そういった先生方にどういった支援があるのかというと、サポーターが巡回しているというお話を聞きました。これは3名ということですけども、本当にその3名で十分かどうかというのはよくわかりませんが、市民の中にもITに強い方もおられるので、そういうボランティアなんかも活用するなどして、あるいは大学にもそういうことに興味もある方もおりますので、そういう交流なども含めて、広く支えていくという仕組みを考えていく必要があるかなと思います。

ボランティアであればボランティアポイント、除雪などをやってもらえると除雪ポイントなどがあったり、江別市の中で何かをするとポイントがもらえるみたいなことを考えてもいいかなと思います。

とにかく、自分たちあるいは教員だけで頑張るとするのは限界がありますので、皆さんで支えるというふうにしていただければと思います。

ほかに何かございますでしょうか。

●干野委員

デジタルというのは電気がないと駄目だと思いますので、災害時のときの対策や訓練などの対応や想定などについても言及があると、説明を受ける市民の方の安全や信頼に繋がると思うのですがいかがでしょうか。

●事務局

ご提言ということかと思いますが、災害時の対応も含めたデジタルの活用ということもございます。そうした視点は非常に大事だと考えております。

全体方針をこれから策定をさせていただくわけですけども、災害時のそうした視点、さらには、全体方針策定後もそこで終わりではございませんので、事業の進捗などに適宜そういった視点を考慮し進めていかなければいけないと考えております。

●布施委員

2ページの行政手続について、下の方に27手続と記載されております。順次拡大ということですが、今後の見通しについてあればお聞きかせ願います。

●事務局

今回の27手続に関しましては、国が示した最低限のものを、まず今年度中に実装するという形をとっております。記載のとおり、順次拡大予定ということですが、研究や現場との交渉など課題もございますが、順次拡大していく予定であります。

●明神委員長

ほかに何かございますでしょうか。

《質疑なし》

2. (1) 江別市DX推進方針（仮称）について

ウ 市の課題

●明神委員長

それでは、次に移りたいと思います。

『ウ 市の課題』について、事務局より説明願います。

●事務局

それでは、市の課題について、ご説明いたします。

資料3をご覧ください。

「1. 課題の抽出」についてですが、当委員会におけるDX推進方針検討のための資料として、当市の現状や他自治体の方針を参考に、現在考えられる主な課題等をまとめたものであります。

項目としましては、「(1)地域社会のデジタル化」と「(2)行政のデジタル化」で分類しており、それぞれの項目において、「市の現状」、それに対応する「具体的なデジタル技術」、導入した際に想定される「効果」、導入した場合の「課題」について、まとめています。

本資料に記載されている内容につきましては、様々な課題の中の一部であり、現在は市役所内部においても、全庁的な課題等についての照会をかけ、結果を取りまとめているところであり、今後、当委員会において、庁内の課題抽出の結果をはじめとした様々な課題や、デジタル技術を活用した課題解決の手法などについて、別途検討をお願いする予定です。

次に、資料下段の「2. 理想のまちの実現に向けて」についてであります。今後大きく変化していく社会に対応していくためには、庁内・庁外で課題を共有し、地域社会のDXと行政事務のDXを両輪で取り組んでいくことが重要であり、順次導入に向けた検討を進めていけるよう整理していく必要があるとしています。

今後の進め方としましては、先ほど申し上げた市役所内部での検討結果と、本日、みなさまからいただいた意見を踏まえ、次回以降の検討委員会で、改めて課題について、方針の骨子案と共にお示しし、ご意見を伺ってまいりたいと考えており、出来上がったDX推進方針が、今後の江別市におけるデジタル政策の、方向性を示すものになればと考えております。

資料3についての説明は、以上になります。

●明神委員長

ありがとうございます。只今の説明について、何かご意見・ご質問などございますでしょうか。

●佐藤（誠）委員

(1)の地域社会のデジタル化ということで、3つ項目がございますけれども、これはこれで非常にわかります。

その中で、住民生活の視点で日常の生活に浸透していかないと、全ての方に伝わるということはなかなか難しいと思います。そういった意味で、ここに記載の福祉や交

通、農業に行く前の普段の生活の中に溶け込むような区分、システム開発的なものがあればありがたいなと思っております。

●事務局

この資料の中の取組は、あくまで例として挙げさせていただいております。お話しただいたその入り口の部分に、誰も取り残さないという基盤がございますので、この地域社会のデジタル化の一つとして、住民目線の区分というのは入ってこようかなと思いますので、様々なご意見いただきながら方針を策定していければと考えております。

●渡邊委員

(1)の地域社会のデジタル化っていうのは、例というお話ですが、まだまだ行える部分はあると思うのですが、雪対策を入れていただければと思います。雪に関して、やはり江別市特有のものがあると思いますので、そういった部分をDXとかデジタル化で解決できればいいなと思っています。

●事務局

現在、庁内の中でいろいろな課題を取りまとめておりますが、除雪という視点は出てくるものと認識しております。

●明神委員長

恐らく除雪というのは、正面突破で大きな重機を入れるとかそういうこともありますけれども、かなり効率的にやろうとすれば、デジタル化を利用してできるかなと思います。

どこの部分で困っているかというのを早めに確認し、センサーやドローンなどいろんな手段がございますので、そういうものを使って効率的にやるというのも一つの手だと思います。

ほかに何かございますでしょうか。

●龍田委員

この市の課題や前段にあった説明は、多分次のにも繋がっていくと思うのですが、根本的な質問を1点だけ。今日答えられなければ次回以降でも構わないですが、農業のところで書いてある導入への課題というところで通信網の整備というのがあります。

国道を走ると、携帯が対応していれば5Gの電波を拾ったりするような場所もございますので、通信インフラに関しては比較的整っているかなとは思っておりますが、中心部からちょっと外れますと怪しい感じになります。その辺は布施委員の方が承知されてると思いますけども、そういった中で、もちろんこういうソフトやハードの面などに対して施策をとっていくというのも大変重要なことだと思いますが、通信インフラの整備等が江別全体においてどの程度を確保されているものなのか、また、例えば公共施設内での無料Wi-Fiの使用状況などを含めて、ポンっと舵を右に切ったときにすぐすんなりと、通信を享受できるのか、今日でなくても構わないので教えていただけるとうれしいです。

●事務局

現在、市役所内部でも、公共施設内の無料Wi-Fiの整備ですとか、そういった議論も出ておりますが、そういった点について、当委員会等ご意見いただきながら実施していきたいと考えております。

また、農業の面でいくと、当然農村地域の通信網の整備というところも、議論として出ております。国からも、農村地域の通信網の整備について補助メニュー等も出ておりますので、検討しながら進めていきたいと考えております。

通信インフラの整備状況について、次回以降、資料を提出してほしい旨のご発言がございましたが、市内の通信網の整備状況、Wi-Fi等の関係について、できる限り情報を収集させていただきましても、現状、市が保有している情報自体がどれだけあるのかという部分はなかなか難しい部分もございますので、そうした中、できる範囲で提示をさせていただきたいなと考えております。

●明神委員長

この誰一人取り残さないという意味でも、この通信網、インフラ整備というのは欠かせないものだと思います。ある国では、国民一人一人がインターネットを利用することが権利として保障されています。そこまではどうかと思いますが、ぜひ、この整備につきましては、重点的にお願いしたいなと思います。

ほか何かございますでしょうか。

●佐藤（和）委員

全体の伝え方の問題として、例えばこの地域社会のデジタル化ですとか、行政のデジタル化という言葉は、我々が聞けば、これはもちろんいい方にしていくための行動だということが理解できます。江別市のような高齢者がすごく多い街で、これが余りにバーンと表に出て、誰もがいつでもどこでもデジタルの恩恵を享受とか言われると、これは受け止め方によっては、デジタル機器を操作出来ないと困るような社会になってしまうのではないかという、そういう恐怖を覚える方も出るんじゃないかなと懸念いたします。

これまでのお話を伺っていきますと、例えば、先ほどご紹介いただいた保育士さんのお話の中であったように、デジタル化を通じた効率化によって、時間が確保されて、より子どもと向き合うことができるということがありました。こういうデジタルの直接ではなく、間接的な効果というものもたくさんあると思います。

その辺りをしっかりと市民の方へうまくお伝えいただければ、市民の方もデジタル社会という、このテーマをより受入れやすくなるのではないかなと思います。

●事務局

デジタルに関しては、わかりやすい言葉でわかりやすい説明というのが求められると理解しておりますので、難しい言葉を使ったりせずわかりやすい表現を意識していきたいなと考えております。

あとは、直接的ではない間接的な効果というものも市民の方々に伝えられるよう、全体方針を作成するに当たって意識していきたいと考えております。

●布施委員

先ほど龍田委員が農業の話に触れていたのですが、ちょっと一部ですがお話をさせていただきます。

農業の区分で担い手不足ということがありますが、デジタルを活用するということ

で、自動操舵トラクターやドローンというものが近年普及しております。そこで、先ほどの通信網という部分に関連するのですが、位置情報などについて衛星などを通じてきっちりできての自動操舵になると思います。今後、役所の議論の中で、どの場所に設置するのかという議論も出てくると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

●鈴木委員

全体的な課題抽出というのは、市ですとか他自治体の方針を参考にとということだと思います。私の率直な感想から申しますと、デジタル化という名前がついておりますけれども、デジタルにとどまらない全方位的な視点が必要なため、課題抽出そのものが大変なのだろうと思ひました。

一方で、ほかの自治体の事例を見聞きしたところによりますと、市民側が課題をピックアップするケースもあるようです。例えば、当市でも一部やっておられると思ひますが、オープンデータを公開して、それを市民や学校に通っているような子どもたちにデータを使って教育する方法を取り、自らが課題をピックアップするみたいな、そういった取組も今後求められるのではないかとと思ひます。市として、どこまで考えておられるのか、お聞かせいただけますでしょうか。

●事務局

課題の抽出の件ですけれども、庁内でどんな課題があるか調査をしているところでございます。また、市民の方からの課題のピックアップということについては、市民アンケートを実施しておりますので、そうした回答結果の中からも課題が見えてくる部分もあろうかと考えております。

●鈴木委員

オープンデータに関してどうでしょうか。市のホームページを見ますと、ZIPデータでまとめられている一部のデータですけれども、それを他自治体のように、いわゆるAPIと呼ばれる仕組みで、利便性高くプログラムなどで再加工できるような、そういったプラットフォームを今後用意するとか、そういった計画はおありでしょうか。

●事務局

オープンデータの今後の活用方法についてですが、ZIPファイルのままでは展開がなかなか難しいかと思ひます。

デジタル田園都市国家構想推進交付金の利用において、データ連携基盤とそういったデータを連携する必要もございまして、市民の方々あるいは企業の方々が、使いやすいような仕組みをつくり上げていく必要があると考えているところでございまして。

●明神委員長

ほかに何かございましてでしょうか。

《質疑なし》

2. (2) デジタル田園都市国家構想推進交付金に係る進捗状況について

●明神委員長

それでは、『(2) デジタル田園都市国家構想推進交付金に係る進捗状況について』事務局より説明願います。

●事務局

それでは、デジタル田園都市国家構想推進交付金に係る進捗状況について、ご説明いたします。

資料4をご覧ください。

前回会議でもご説明しましたとおり、当市で提案した生涯健康プラットフォーム推進事業が、国のデジタル田園都市国家構想推進交付金の採択を受け、現在は、実施事業者を選定する公募型プロポーザルを実施している状況です。

1の、これまでの経過でございますが、令和4年6月17日に「生涯健康プラットフォーム推進事業」がデジタル田園都市国家構想推進交付金の採択を受け、9月1日には令和4年度一般会計補正予算（第3号）の議決を頂いたところであります。その後、9月2日より、公募型プロポーザル実施に向けた実施要領等の調整を開始し、10月6日には、第1回生涯健康プラットフォーム推進事業者選定委員会を開催いたしました。

次に、2の事業概要につきましては、資料2ページをご覧ください。こちらは、各アプリケーションの入り口となるe-ダイアリーの概念図であり、下段になりますが、行政・医療・ライフトレーナー・えべつ市場など、6つのコンテンツから構成されることを示しております。

次に、3ページをご覧ください。こちらは、各コンテンツの概要について説明しております。

①行政のページでは、健康に関する情報（ニュースレター）や各種イベント情報の発信を、②の医療のページでは、お薬手帳などの電子化を、③私のページでは、通常使用するスマホの基本アプリとの連携を想定しております。また、④のライフトレーナーでは、心拍や歩数などの基本バイタルデータを見える化することにより食生活などのサポートを、⑤えべつ市場では、江別市特産の食材・食品やヘルシーDo商品の購入などを想定しております。

事業の概要については以上となりますが、現時点では、不確定な部分が多く、わかりづらい部分も多くあるのではないかと考えております。今後、事業者が決定し、もう少し具体的な機能や、画面イメージ等もご提示できるようになった際には、当委員会においても、随時ご報告させていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

1ページにお戻りください。

3の事業者公募の概要であります。本業務は様々なサービスアプリケーションを支えるプラットフォームの実装と、その安全な運用を支えるデータ連携基盤の活用のもと、包括的な健康管理や促進サービスを構築・実装することで、「生涯健康プラットフォーム」を通じて市民の健康増進につなげていくものでして、本プロポーザルにおいて、当事業の着実な整備及び実装を行う事業者を公募し選定するものであります。

最後に、4 今後のスケジュールであります。10月18日からプロポーザル参加者の公募を開始しており、11月18日を提案書の提出期限としております。11月下旬には、第2回生涯健康プラットフォーム推進事業者選定委員会を開催し、事業者選定を経て、契約の締結を行う予定としております。

資料4の説明は、以上になります。

●明神委員長

ありがとうございます。只今の説明について、何かご意見・ご質問などございますでしょうか。

●佐藤（誠）委員

2ページ目の表に医療データマネジメントと書いてあるのですが、例えば、あなたはどこの病院に行ったらいいなど、病院のあっせんをしてくれるようなシステムなのでしょうか。

●事務局

医療マネジメントは、eダイアリーというアプリ内に医療のページというものが作成される予定となっています。

現状では、お薬手帳の電子化、健診情報の電子化、あとは母子手帳の電子化などを想定しており、ご質問のどこの病院に行かれたほうがいいですか、そういうところまでは現状では想定はしておりません。

●明神委員長

私のページによく使用するスマホの基本アプリとの連携と記載がありますが、今おっしゃった病気の診断というか、こういう病気じゃないかとか、近くの病院の紹介とか、別のアプリもございますので、そういったものと連携をするということも考えられるので、今後検討していただくということをお願いしたいと思います。

ほかに何かございますでしょうか。

●佐藤（和）委員

このeダイアリーというのは、江別市の独自のプラットフォームということでしょうか。

●事務局

生涯健康プラットフォームの入り口となるeダイアリーは江別市独自のものになります。

●佐藤（和）委員

その場合、例えば転出された場合などについて、母子健康手帳などの内容の引継ぎというあたりはスムーズにいくのでしょうか。転出先はまだこういったものがなく、紙の手帳だった場合、どのような形になるのでしょうか。

●事務局

このeダイアリーは江別市独自のものではございますが、今後、こちらのシステムを他市でも使えるよう横展開も考えております。また、転出された場合も、データ自体は手入力で入れることも出来る想定でおりますので、データの自体は引き続き管理していただけるようなものになっております。

●佐藤（和）委員

その辺りは、使いやすいような方法を考えていただければと思います。

●川口委員

江別市独自の医療データということで、その中にお薬手帳や健診情報などが記録できるようですが、独自ということは、健康診断の情報なんかが出たらそれを自分で打ちこんで記録するとかそういうイメージなのでしょうか。

それであれば、僕なんかですと面倒くさくて使わないかなと思っているので、どんなイメージなのか、もし決まってなければいいのですが、使いやすいものにしていただきたいと思います。

●事務局

今の段階では、まず市立病院と連携し、健診情報の電子化を進めていきたいと考えております。

そのため、そういった情報については、自分で全てデータを入れるというわけではなく、自動で表示されるような仕組みを考えております。

●明神委員長

ほかに何かございますでしょうか。

《質疑なし》

3. その他

●明神委員長

よろしければ、次に移りたいと思います。

「次第3. その他」について、各委員から何かございませんか。

●佐藤（誠）委員

説明の中で何回も出ていると思いますが、各課と連携しながらデジタル化に取り組むということだと思います。例えば、自連協の事務局というのは御存じのとおり、市民生活課で、自治会の全体の管理やホームページの管理などしております。

その中で、自治会ではDXまで行かずにICT化から始めることになるかと思えますけれども、そういったことをやろうとするときに、当然窓口的に言うと市民生活課が中心になり得ると思います。かといって、ICT化などといった話になりますと、市民生活課的に言うと自治体全体を考えて回答する必要がありますから、それは無理ですとか、そういう話になる可能性があったときに、そういう個別の相談は、皆さんのところにしたほうがいいのか、いかがでしょうか。

●事務局

ご質問の点について、市民生活課が自治会の担当課であり、我々は全庁的なデジタルの推進という役割を担っておりますので、そこは密接に連携を図りながら取り組んで参ります。実は今回、全庁の課題抽出の中でも、担当課からは自治会回覧を効率的にならないかといったような意見がありました。

そこで、今回のこの推進方針でございますが、国からは、各自治体のDX、デジタルのビジョンを示すこと、さらにその取組について、今後5年程度の作業工程を示すことの2点が要請されており、この2点がマストで入ってくるような、イメージで考えております。

そうした中で、今回策定する推進方針には、そうした国の手順書の内容を参考に財源等も勘案しながらすぐに取り組まなければならないもの、中長期的な課題とするも

の、そういったところをまずは整理をさせていただくような内容で考えております。

●佐藤（誠）委員

ありがとうございます。それについてなんですけれども、せっかくなのでちょっとお話しさせていただきます。恐らく、自治会というのが一番理解されず、システマ的にも一番大変な部分になってくると想定されます。私が住んでいる新栄台西という自治体のお話しをさせていただきますと、730世帯の自治会で、江別の縮小版だと思っていただければいいと思うのですが、たまたまその地区というのは、65歳以上の人口が10%です。

江別市全体だと23～25%だと思いますので、江別の中では非常に若い自治会になります。その自治会の中で、DXと言ったらオーバーだとは思いますが、メタバースの話をしています。それを目指すために、今ウェブの中でどこまでできるか、ICT化しようかというのを役員会の中で話をしていて、できる範囲では何があるのかといったときに3点だったんですね。

1点は江別ペイみたいなものです。江別ペイみたいな地域通貨を発行するような形をしていただければ、うちの自治会費っていうのは、会議ペイというものを使わせていただいて、銀行振り込みができる仕組みなのですが、75%の方から回収が終わりました。残りの25%はやっていないのですが、そのうちの、反対ではないですけどやらないっていう方は10%ぐらいなのです。その最大の原因が、怖い・不安ということからなので、例えば、江別ペイみたいな形でお金のことに関して江別で何か地域通貨みたいのものがあれば、安全安心となり、それで9割近い方がオーケーになるので、ほぼ100%近い状況になると思います。

2つ目が、電話やファクス、回覧や災害のときの連絡手段ということで、チャット機能があるLINEワークスを、NPO法人の認定で、1000アカウントお借りしております。

そのアカウントを全部の役員と区長にはフリーで与え、そしてそれは災害や回覧などで利用しております。

次の段階として、自治会というのは結局顔と顔を合わせたりします。自治会館を持っているところはいいのですが、私どもの自治体では730世帯あるのですが、自治会館がないので、今までは福祉施設をお借りしていました。コロナ禍では、それが出来ませんので、プライベートオフィスの発想ということで、グループウェアを使っております。それがサイボーズのガルーンというのを、これも同じくサイボーズからNPO法人、非営利団体の自治会に対し、900アカウントを年間1万円でお貸ししていただくというのを使っております。

この3つ、お金とチャット機能とグループウェア、あともう1つ、キントーンというのがあるのですが、それは今後900アカウントといただけますので、各家庭にキントーンを割り当てることができます。

ということを三年計画で考えており、初年度である今年は会議ペイまでいっております。そういう話を、江別がこういった方向でやっていただけるっていう点があれば、安心ですからそっちに移りたいと考えおります。とったようなことを、今は答えられないかもしれないですけど、自治会はもう動いていってますので、情報の経過など何かそれに対してご相談に乗っていただくとすれば、それは皆さんのところにお話ししてもいいものなのかというような、何か個別の話ではあるんですけど、よろしく願います。

●事務局

会費の現金徴収以外のそういったオンラインという話などは、恐らく自治会活動の中では先進的な取組をされていると思ってお聞きしておりました。

今ご指摘いただいた部分が、全体方針にどれだけ反映できるかという点について、今後検討させていただくこととなりますが、全体方針は策定したらそれで終わりではありませんし、それ以降、カスタマイズが必要だとも考えております。

後段の、そういったご相談というのは、市民生活課はもちろんですけれども、我々もお話を伺う中で参考にさせていただける部分があると思って伺っておりましたので、もし機会があれば、教えていただきたいと思っております。

●明神委員長

はい、ありがとうございます。非常に先進的な取組をご紹介いただきましてありがとうございます。

そのほか何かございますでしょうか。

●鈴木委員

2つあるのですが、1つは要望です。これまでいろいろご説明いただきましたが、住民以外の視点で、企業に対するDX支援はどうかと思っております。私は企業支援の仕事もしているのですが、デジタルを使うというのが難しい企業もある中で、そこに対する支援は何があるのだろうと日々考えています。市としてできるのであれば、DXセミナーを主催したり、専門家を派遣するなど、国がやるのか道がやるのかもありますが、補助金の活用支援をしたりですとか。場合によっては、そういったDXを推進している企業同士の交流の場をつくってあげるなどの取組があるといいと思います。

もう1点ですけれども、先ほどのeダイアリーに戻ってしまうのですが、4億円の事業ということで、これを使って全市民にできることだったら活用していただきたいなというふうに思う一方で、なかなか難しいなと思う点があります。商用スマホアプリは、日々飽きずに利用してもらうような施策を頑張っていると思います。そういったものにどこまで近づけるかは課題であると思っていて、日々情報発信するなど、余り押しつけがましくなってしまうといけず、飽きないで利用できるような取組を盛り込めるかということです。

それと、先ほどの江別市から転出してしまったときの取扱いという話でもあったのですが、アプリのいいところは、通知が来たり見る機会がふえるところかと思えます。市民でなくなった後でも、情報提供をしてあげられると、市に対するロイヤルティが高まって、将来、また江別市に戻っていきいたいなとかそういった考え方も、醸成できるのではないかなと思います。市民に対するアプリなのでしょうけれども、江別市のファンをふやすような取組を進めていただきたいと思えました。

●事務局

まず1点目の、企業に対するアプローチなんですけれども、今回整備する生涯健康プラットフォームについてですが、企業の今のキーワードとして健康経営というものもあると思います。そういった働き手の世代の皆さまに、この健康アプリを利用していただいて、企業単位で集計したりですとか、それぞれ健康の状況を高め合って、社員の中で健康管理していくというようなことも想定していますので、まずそういった健康経営の部分が1点ございます。

それから今回資料として出していないのですが、テレワークの関係について国の補

助金も利用し、江別市としても今年度中に実施するよう経済部から聞いています。

続きまして、eダイアリーの情報発信等についてですが、鈴木委員おっしゃられるとおり、1番大事なのは飽きずにずっと使っていただけるような仕組みだと思っておりまして、そこは選定される事業者様とも詰めていきたいと考えております。行政の情報発信ということで、健康に関するレシピの発信や情報発信とは違いますが健康に対するレコメンドなど、ユーザーが楽しんで健康管理していけるような仕組みというのも考えているところでございますので、そういったところもご意見を伺いながら進めていきたいと考えております。

●明神委員長

ほかに何かございますでしょうか。なければ、事務局より御報告をお願いします。

●事務局

次回、第3回の開催予定は12月を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

●明神委員長

ありがとうございます。只今の説明について、何かご意見・ご質問などございますでしょうか。

4. 閉会

●明神委員長

本日予定の議事につきまして、すべて終了いたしました。

以上をもちまして、令和4年度第2回江別市未来型政策検討委員会を閉会いたします。

本日はありがとうございました。